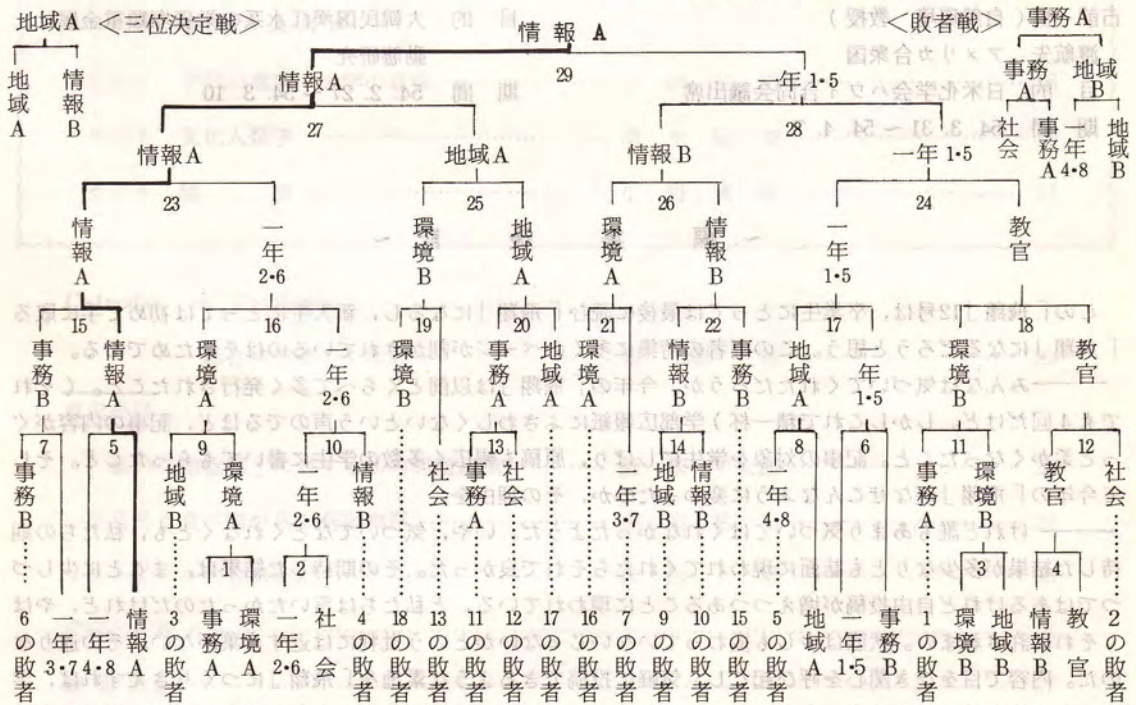


務Aチームの方々は学生チームに敗れた事にショックを受けられ、後日優勝チームに再試合を申し込んでおられたのですが、その結果は未だ我々の知る由のない所であります。

全試合の終了後、106号教室において表賞式並びに、全体で懇親会を行い、参加者一同、和気々と総合科学部の発展を願って、歌ありおどりの親睦がいたる所で行なわれました。最後に全員で後片づけを行い、無事とどこおりなく大会の全内容が終了したことは我々世話役一同の無上の喜びであります。又この後大勢連れだつて二次会三次会へと流れていったことは言うまでもありません。



後記：我々世話人の力量不足を補なつてくださった事務の方々に厚く感謝するとともに、次回の大会の世話人の方々の御健闘を期待するものであります。



学部の記録
人事異動

<採用> 6名の突利部顧問の村自編隊のり部等科合編るが難を来場が計未つて、*部の実更も念取の部
(教官の部)

3. 1 水田義弘 (基礎科学研究 講師)

(事務の部)

2. 15 山下裕子 (厚生補導係)

海外渡航者

小野寛晰(情報行動 助教授)

渡航先 ポーランド

目的 数理論理学の研究

期間 54. 3. 10. ~ 54. 4. 17

小野光代(ドイツ語 助教授)

渡航先 チェコスロヴァキア・フランス・オーストリア

目的 プラハ新市裁判記録の証言録に基づく初期
新高独語期のドイツ筆記語の形態に関する研究

期間 54. 2. 25 ~ 54. 4. 8

古前 恒(自然環境 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 日米化学会ハワイ合同会議出席

期間 54. 3. 31 ~ 54. 4. 7

林 七雄(自然環境 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 日米化学会ハワイ合同会議出席

期間 54. 3. 31 ~ 54. 4. 7

山下和男(自然環境 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 日米化学会ハワイ合同会議出席

期間 54. 3. 31 ~ 54. 4. 7

中根周歩(自然環境 助手)

渡航先 大韓民国

目的 大韓民国漢江水系の栄養塩類重金属
動態研究

期間 54. 2. 27 ~ 54. 3. 10

～ 編集後記 ～

この「飛翔」12号は、卒業生にとっては最後に読む「飛翔」になるし、新入生にとっては初めて手に取る「飛翔」になるだろうと思う。この両者の特集に多くのページが割かされているのはそのためである。

——みんなは気づいてくれただろうか。今年の「飛翔」は以前とくらべて多く発行されたこと。(それでも4回だけ。しかしこれで精一杯)学部広報紙にふさわしくないという声のでもほど、記事の内容がぐっと柔くなったこと。記事の対象を学生にしぼり、原稿も幅広く多数の学生に書いてもらったこと。そして今年の「飛翔」がなぜこんなふうになったのか、その理由を。

——けれど誰もあまり気づいてはくれなかったようだ。いや、気づいてなどくれなくとも、私たちの期待した結果が多少なりとも誌面に現われてくれたらそれで良かった。その期待した結果は、まことに少しづつではあるけれど自由投稿が増えつつあることに現われている、と私たちは言いたかったのだけれど、やはりそれは許されまい。状態は少しも変わっていないじゃないかという批判には返す言葉がない。その通りなのだ。内容で目をひき関心と呼び起こし、気軽に投稿できるような素地を「飛翔」につくりさえすれば、学生の自由投稿は、研究論文は次々と誌面に現われてくると信じていたのは、大きな誤りだった。根はそんなに浅いものではなかった。研究は第一に発表されなくてはならぬ。批判と賛同を得てその真価が問われなくてはならぬ。その発表の場として最も手っとり早い雑誌であるはずの「飛翔」がこれほど利用されていないという事実は、この学部の学生の研究活動が活発とはいえない現実を如実に指摘するものであるはずだ。そしてさらに問題をさかのぼれば、その原因は学生個人の怠慢、不勉強とかいうレベルにあるのではなく、創設の理念と現実とのギャップで未だに模索を続ける総合科学部という組織自体の問題性に突き当たりはしないだろうか。

このところを「飛翔」が触れずして、この雑誌が自由投稿で横溢するほどに活発化することはありえない気がする。これ以後「飛翔」が学部は何らかの価値ある存在として残り続けるとすれば、この点を取りあげ誌面で考え解決していくしかないと思う。

ほんとうはここで、新入生に対して「飛翔」とはどんな雑誌なのかということ、希望に満ちた筆致で説明しなければならなかったのだけれど、どうやらその責は果されていないようだ。説明することもあるまい。新しい「飛翔」の姿は新しい人たちが創ってほしいと思う。

最後に、49・50生のみなさんには、忙しい時にかかわらず特集のアンケートに多数の人が答えてくれたこ

とを感謝したい。卒業生ほとんどの回答を得たいと極力努力したが、その数には満たなかった。また「今いちばん言いたいこと」の欄では匿名の文章が多いことに気づかれると思う。アンケートとしたのだからもちろん匿名の回答でも悪くはないのだが、無責任に好き勝手なことを書いたというのでもない以上、やはり名前を明記してほしかった。自分の書いた文章は自分で責任をもつことは大切だと思う。これは編集部のミスでもあった。

「飛翔」の編集はいま完全に学生に任されている。一部には、こういうことの好きな連中が楽しみで出している雑誌と思われる向きもあるが、まあ、それでもいい。どういう動機でもいいから、新入生の諸君、「飛翔」の編集に参加してみないか。
 (51生 白石 裕之)

~~~~~原 稿 募 集~~~~~

「飛翔」が自由投稿で埋まるほどの投稿を期待しています。内容の種類は問いません。特に学生諸君の研究発表の場として大いに活用してください。また表紙を飾るイラストや写真も募集しています。どちらも編集委員か厚生補導係へ随時持ち寄って下さい。

